



進路だより



R3年度 11月号

～ 2021年の締めくくいの時を迎えて ～

今年も残すところ、あと1か月ほどになりました。この2021年はどんな年になったのでしょうか？高校生活とは不思議なもので、時間の経過がとても早く感じるものです。「運動会があって中間考査が終わってからはや2か月もたって、もう期末考査だ！」という感覚でしょうか。一日一日を大切に、できる限りの対策を練って期末考査に臨みましょう。3年生の皆さんは、大学入学共通テストまであと約50日。体調管理に気を付けて、悔いのないよう頑張ってください。

1・2年生は来年度の科目選択を行う時期です。理科や地歴は、何を選択しようか迷っていませんか？特に1年生の普通科の皆さんは、「文型に進むか？理型に進むか？」という大きな悩みをもっている人も多いと思います。そこで今回は、進路実現に向けて「悩める後輩たちのために一肌脱ごう！」と、2・3年生の進路委員の先輩方が届けてくれたアドバイスをまとめました。

また、裏面には10月第4週から、11月第1週まで、皆さんの先輩でもある教育実習生が来校されていました。実習生から、御自身の所属の紹介や皆さんにアドバイスをいただいています。数年前は南高生だった人たちからのメッセージですので、ぜひ勉強法や進路選択の参考にしてください。

「自分はこのような基準で選んだ」

○文型

- ・自分の将来の夢につながるから。
- ・行きたい学部が文系にあったから。
- ・暗記でカバーできる部分が多いから。
- ・志望校の入試に数学Ⅲなどが必要ないから。
- ・外国と関わりを持った職業に就きたいから。
- ・日本史がやりたかったから。

○理型

- ・自分の将来の夢に合った選択を！！
- ・楽しそうに理系の話をする人達に憧れたから。
- ・数学Ⅲや理科専門の授業を受けたいと思ったから。
- ・理科専門を学ぶことで進路の視野が広がると思ったから。
- ・志望校が理系だったから。
- ・実験が好きだから。

「選択して良かったこと」

○文型

- ・数学と理科が2年生で終わるから演習をしやすい。
- ・日本史Bが楽しい。
- ・英語を学習する機会が増えた。
- ・数学の進むスピードが理型に比べて遅い。
- ・文章をたくさん読んで、読解力が向上した。
- ・歴史などを深く勉強できる
- ・女子が多い。

○理型

- ・数学や理科の授業が文型に比べて増える。
- ・抽象的な事柄への理解が向上したこと。
- ・クラスのみならず理系ネタで盛り上がること。
- ・考えが似ている人と集まれること。
- ・論理的思考力を磨ける。
- ・物理や化学を勉強することによって、身近な現象の理屈を知れること。

自分の志望校の入試科目についてもよく調べ、悔いのない類型選択・科目選択をしてください。

先輩からのメッセージ

- ① 大学の所属 ② 研究内容 ③ 大学を選んだ理由 ④ オススメの勉強法 ⑤ 5年後の自分

【 塩見 航平 先輩 (地理) 】

- ① 愛媛大学 教育学部 学校教育教員養成課程 中等教育コース 社会科専攻 人文地理学研究室
- ② 3年前期まで社会科教育法など、教員として授業するときに必要な知識や考え方などを学ぶ。3年後期から卒業までそれぞれ興味・関心のある研究室に所属する。人文地理学は、人々の生活と土地利用などとの関係性を研究する。
- ③ 地域とのつながりが強く、実習などの機会が多いため。1年次から実習に近い体験活動がある。
- ④ 歴史は、教科書を繰り返し読むことで、全体の流れがつかめる。英語は音読。口を動かす+声を聞く+文章を見る。3つの感覚を使って英語が学べる。
- ⑤ 中学校教員 (社会科)、学級担任になりたい。

【 伊藤 瑞希 先輩 (数学) 】

- ① 高知工科大学 環境理工学部 細胞分子遺伝研究室
- ② ナノ粒子を藻類と一緒にに入れて、どんな細胞死をするのか、メカニズムの解明を行う予定。
- ③ やりたいことができる大学だったので選びました。
- ④ 好きな科目から解く。模試の解き直し。授業をしっかり聞く。
- ⑤ 日々目標に向かって進んでいる人でありたいです。

【報告】第5回教養アップ講座 「仮説検証型研究のススメ～動物行動学入門」

10月25日(月)の放課後に、京都大学が高大接続・高大連携活動の一環として、全国的に展開している「学びコーディネーター事業」を活用し、講師として福田将矢先生(京都大学)をお迎えして、講演を行いました。46名の生徒が参加しました。先生が研究対象としているヘビの行動を例に、なぜこの動物はこんな行動をとるのかについて考えました。次に、動物の行動は4つの要因に分けて説明できるという「ティンバーゲンの4つの問い」により、ヘビの行動が、異なる捕食者それぞれに対する防御行動であり、目的をもった行動であることが明かされました。そして、それを明らかにしていく過程における仮説の生成について丁寧にお話しいただきました。詳細な観察や先行研究の調査などから十分なデータ収集を行うことで、単なる疑問が仮説として生まれ変わるといふご指摘に、多くの生徒が自分たちの課題研究やDS(普通科課題研究)を振り返り、認識を新たにしました。仮説検証型研究とはいかなるものかを考えた1時間でしたが、動物の行動に対する好奇心のみならず、大学で何を学ぶか、自身の進路選択についてなど多くの気づきを与えていただき、大変有意義な時間となりました。受講した生徒の感想を紹介します。



・今まで私が知っていた心理学というのは「人の心の動きを探る」というものだったが、「動物」という別のところからアプローチをし、そこから人について考えていくという方法を知り、感銘を受けた。日々を生活する人間に心があり、行動しているように「人間以外の生物にも心があるのか?」と考えていくことはとても面白そうだった。特に心に残っているのは、サルの嫉妬の実験だ。ヒトは日常的に「怒り」や「イライラ」を覚えている。が、それは他の種にも存在すると分かり、同じ生き物なのだというのを改めて感じた。今回の講座を通し、自分の進路について道が大きく広がるとともに、大きな道に分かれ目に立っていることを認識した。質問に答えてくださったように、文系と理系を選ぶ大切な時期であることを思い知った。自分のやりたいこと、知りたいこと、見たいもののために、苦手な道に進む決意をしていきたい。